

氏名	Aさん	Bさん	Cさん
学科(学部生)	日本文化学科	日本文化学科	日本文化学科
Q1 卒業論文のテーマ	都市理念としての「音楽のある街、高崎」の研究	小林古径「極楽井」の研究	服飾から見るカキツバタ、アヤメ、ショウブ
Q2 テーマを選んだ理由	ゼミでは現代美術や建築、音楽等、幅広い文化芸術を対象に勉強してきました。卒業では身近なものを取り上げたかったので、私の出身地である群馬県高崎市の音楽文化を選びました。高崎市では、都市理念として音楽の街づくりを掲げているのでこのテーマにしました。	小林古径の、清らかでありつつ濃とした画風に惹かれて、まず画家に興味を持ちました。その後古径の作品を見ていううちに、「極楽井」という作品に出会い、その作品をより深く理解したいと感じたため、テーマと致しました。	最初に「燕子花蒔絵瑠箱」という作品を見て、カキツバタという花について興味を持ちました。そこで、指導教員の先生からカキツバタと似ている植物にアヤメ、ショウブがあることを聞いて、日本ではこれまでものように認識され区別されていたのかについて研究することにしました。
Q3 作成スケジュール	<p>・期間 → 約一年半かきました。</p> <p>・一番時間をかけた部分 → 参考文献・資料の収集とまとめです。</p> <p>[3年生]</p> <p>6月 何を取り上げたいのかを考える</p> <p>↓</p> <p>夏休み 第一回目参考文献収集</p> <p>↓</p> <p>10月 テーマ設定</p> <p>↓</p> <p>12月 第二回目参考文献収集</p> <p>↓</p> <p>春休み 参考文献を読み込みまとめる</p> <p>[4年生]</p> <p>9月 執筆を始める</p> <p>↓</p> <p>提出(12月13日付)</p>	<p>・期間 → 約一年半</p> <p>・一番時間をかけた部分 → 章立てといった論文の構成について。</p> <p>[3年生]</p> <p>夏休み テーマ設定</p> <p>↓</p> <p>9月 テーマに関する発表 指導教授と方向性についての話し合い</p> <p>↓</p> <p>秋学期中 中間発表</p> <p>[4年生]</p> <p>春学期 構成や章立ての検討 指導教授やゼミ生との話し合い</p> <p>↓</p> <p>夏休み 執筆開始 並行して図版の作成、不足している資料の収集</p> <p>↓</p> <p>提出(12月18日付)</p>	<p>・期間 → 約一年</p> <p>・一番時間をかけた部分 → 文献を集めそれを読み解くこと。</p> <p>[3年生]</p> <p>2月 テーマ設定 文献集め</p> <p>[4年生]</p> <p>春学期 (授業での発表を通じて内容をまとめる)</p> <p>↓</p> <p>秋学期 執筆開始 不足している文献の収集</p> <p>↓</p> <p>提出(12月17日付)</p>
Q4 卒業論文の書き方はどこで修得したか	卒業執筆に関する文庫本とゼミで配布された書き方指導のレジュメを参考にしました。	指導教授のゼミにてご指導を受けました。また、ゼミの先輩方からも学びました。	ゼミの授業時に書き方についての指導がありました。
Q5 卒業論文を書くうえで、困難に感じたこと	収集した文献や資料から、高崎市の音楽文化の歴史について詳しく知ることはできたのですが、単にこれまでの歴史を卒業として書くことはできないので、結論として自分は何を言いたいのか悩みました。面談では先生にご指導をいただき、これまでの歴史を踏まえながら、これからの高崎市の音楽の街づくりには何が必要か、自分の主張を提言する卒業にすることにしました。	いざ執筆するという時に、あれこれ悩み始めてしまい中々進まない、という傾向があることが分かりましたので、執筆をする時には覚悟と深さを持つことが必要である、と学びました。	論文の構成を考えると、どう論文を展開させ結論づけるか、最初ははっきりせず苦労しましたが、時代をおって展開するという手法をとりました。
Q6 卒業論文に取り組むときのポイント	参考文献・資料を収集し、まとめることだと思います。	テーマにかける思いと、それを立証するための知識や論理力などを養っていくこと、だと思います。	少しずつでも進めていくこと。丁寧にやること。
Q7 参考文献の入手経路	高崎市立図書館と国立国会図書館を利用しました。大学の図書館ガイダンス「データベース講習会」に出席した際、雑誌・新聞記事の検索方法を教えていただいたので、国立国会図書館で実際に利用に行きました。	学習院のGLIM/OPACシステムや、CiNii Articles/Books、美術館横断検索などの、ウェブ検索システムを活用しました。煮詰まった時には、図書館や美術館図書室など実際に本が手に取れる場所ので、テーマと関係する分野の本棚を見て、探しながら掘り方を学びました。	図書館にある本に関連語句で検索しました。また、「CiNii Article」というサイトで論文検索し、図書館で雑誌を出してもらいました。
Q8 Q7で回答された方法を用いることのメリット	高崎市立図書館は高崎地域に関する文献が充実していたので、これまでの音楽文化の歴史を知るのに役立ちました。国会図書館は雑誌・新聞記事を集める目的で利用しました。高崎市立図書館には雑誌・新聞記事があまりなかったため、写真や図等の資料をコピーできたのは良かったです。	ウェブでの検索システムを使うと、実際に所蔵場所へ行かなくても、どこにどの文献があるのかすぐに分かれますので、時間の効率化が図れます。	本、論文を讀むことで、先行研究について知ることができました。
Q9 お薦めのデータベースやオンラインジャーナル	ざっくばら(引用者注「雑誌記事索引集成データベース」)です。年代の古い資料(雑誌・新聞記事)も検索できるからです。	テーマに関係する論文や雑誌記事を探すのに、CiNii Articlesは必ず参照すべきだと思います。	「古典ライブラリー」 『国歌大観』にある和歌をすべて調べることができ、検索するすぐ出てくるので手作業で調べるより簡単でした。
Q10 失敗(?)をふまえてのアドバイス	自分で購入した卒業執筆の文庫本に則って執筆をしてしまったことです。ゼミで配布された書き方指導のレジュメは、あくまでも参考であると勘違いしてしまいました。引用や参考文献の書き方を修正することになりましたが、内容だけでなく書き方も先生にご指導をいただくべきであったと思います。	論文の構想や内容など、書きたいと思いついた時に、さいなメモや短い文、もしくは小レポートのような感じでも何でも(自分のスタイルに合わせ)、その都度書きためておくことが大切だ、と思います。頭の整理にもなり、その文章を後々生かすことができます。	『国歌大観』を手作業で調べていたこと、また、卒業論文の執筆に取り組むのが遅かったこと。
Q11 図書館に期待すること	卒業ガイダンスです。先輩方の執筆スケジュールやアドバイス、失敗談等を聞くことができ、自分の執筆計画を立てる参考になりました。その時は三年生だったのですが、卒業に対して漠然としているもので、ガイダンスに出たことにより、意識が高まりました。 また、図書館が果たす役割は、勉強面で大学生生活をサポートすることだと思います。大学生は遊びも勉強も両立しなければならないので、そのとき、一方がうまくいかないと充実した生活は送れないと思っています。例えば卒業に行き詰ると、焦ったり、遊びの約束を断ったり、場合によっては授業をさぼってしまったりすることもありません。そんな時、図書館に本が充実していたら焦る気持ちも少し楽になるのではないかと思います。図書館の棚には本がずらっと並んでいます、どれを読んだらいいのか迷うこともあります。手に取りやすいように、司書の方の説明書きや読んだ人の簡単なコメントがあると、さらに勉強がはかどるのではないかと思います。	学習院のGLIM/OPACシステムやMY GLIMでは、そのほかの検索システムもデータベースNAVYなどとして示してくださるので、そこから検索手段を広げられ、とても便利だと感じます。大学生になって参考文献を集める時に、検索システムにはどのようなものがあるのか、まずシステム自体を知らなかったため、文献収集の初めの地点である文献検索システムへのガイドラインがあるということは、とても強いことだと思います。	書庫にある雑誌や書籍の請求をした時にいつもスムーズに出してくださったことに感謝しています。また、図書館の環境もよく落ち着いて研究ができました。